

平成26年5月16日

報道関係各位

平成25年度における岩手県立大学の就職内定状況（平成26年3月31日現在）について

平成25年度における岩手県立大学の就職内定状況（平成26年3月31日現在）を別添のとおり取りまとめたので、情報提供いたします。

なお、本年度内定状況にかかるポイントは、

- ① **四年制大学の内定率が98.1%と開学以来最も高くなつたこと。**
- ② **四年制大学の県内内定率が前年度に比べ12.7ポイント低くなつたこと。**

全体概況および学部ごとの内定率、内定先の県内・県外の内訳等は以下のとおりです。

《四年制大学》

平成25年度就職内定率（平成26年3月31日現在）は、4学部計で98.1%と前年度に比べ2.6ポイント高くなつた。これは、これまで最高だった平成18年度の97.5%を超え開学以来最も高い内定率である。

学部別では、看護学部100%（昨年度94.9%）、社会福祉学部96.8%（同98.9%）、ソフトウェア情報学部96.9%（同93.8%）、総合政策学部98.9%（同94.8%）である。

なお、進学者数は47名（うちソフトウェア情報学部が39名）で前年度と同数であった。

その他、就職も進学も希望しない（独立・起業・家事手伝い・進学浪人・公務員浪人等）者は、18名（前年度12名）であった。

就職した359名のうち、県内就職者は131名（36.5%）と前年度の179名（49.2%）を大きく下回つた。

学部別の県内就職率は、看護学部41.4%（前年度47.9%）、社会福祉学部44.0%（同54.5%）、ソフトウェア情報学部20.4%（同32.2%）、総合政策学部40.9%（同62.0%）である。

総合政策学部については、県外金融系への就職が増加したことが主な要因である。

本学の就職内定率は開学以来94%以上と比較的高く推移してきたが、開学以来最高となったのは景気の回復傾向が鮮明になり、企業の採用意欲が高まっていることを反映したものと見ている。

このことは、学内における内定状況調査において、調査開始の6月以降、前年度に比べ5~10ポイント程度高めに推移してきたことにも現れている。

また、県内就職率が前年度に比べ大幅に低下したが、本年度については県内企業の内定率が前年度並みに推移したことに対し、首都圏企業を中心に内定を出す時期が早まっており、早期に就職活動を終えた学生が増加したものと思われる。

就職先のうち公務員関係は34名（国家公務員1、警察を含む県職員12、市町村職員21）である。

《盛岡短期大学部》

平成 25 年度就職内定率（平成 26 年 3 月 31 日現在）は 98.5% と前年度に比べ 0.1 ポイント高くなつた。これは、これまで最高だった平成 24 年度の 98.4% を超え開学以来最も高い内定率である。

学科別では、生活科学科 97.5%（昨年度 97.6%）、国際文化学科 100.0%（同 100.0%）である。
なお、進学者数は 34 名（前年度 28 名）であった。進学者のうち 24 名は国際文化学科である。

その他、就職も進学も希望しない（独立・起業・家事手伝い・進学浪人・公務員浪人等）者は、4 名（前年度 6 名）であった。

就職した 64 名のうち、県内就職者は 45 名（70.3%）で、前年度の 45 名（71.4%）と同数であった。
学科別では、生活科学科 76.9%（前年度 68.3%）、国際文化学科 60.0%（同 77.3%）である。

主な就職先は、生活科学科（生活科学専攻）では建設業が多く、同栄養学専攻では、内定者 21 名のうち 15 名が栄養士職として福祉・介護やサービス業が多い。

《宮古短期大学部》

平成 25 年度就職内定率（平成 26 年 3 月 31 日現在）は、95.5% と前年度に比べ 0.4 ポイント低くなつた。
これは、これまで最高だった平成 24 年度の 95.9%、平成 19 年度の 95.6% に次ぐ率である。

なお、進学者数は 23 名（前年度 21 名）であった。

その他、就職も進学も希望しない（独立・起業・家事手伝い・進学浪人・公務員浪人等）者は、4 名（前年度 6 名）であった。就職した 63 名のうち、県内就職者は 39 名（61.9%）で前年度 46 名（65.7%）に比べ、7 名（率で 3.6 ポイント）減少した。

主な就職先は、卸・小売業が多く、次いで金融・保険業が多い。